

# 因果推論基礎から機械学習・時系列解析・因果探索を用いた意思決定のアプローチ 正誤表



Tack

2024年3月20日 10:37

\*適宜更新

■p220 コード5.1 下からの3行目

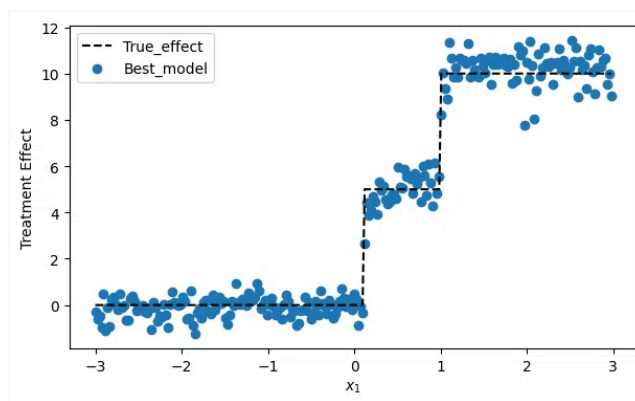
✕ : `from sklearn.ensemble import GradientBoostingRegressor, RandomForestClassifier`

○ : `from sklearn.ensemble import GradientBoostingRegressor, GradientBoostingClassifier`

note上のサンプルコード(chap5\_meta-learner.ipynb)では既に修正済みです。

■p227 出力結果

以下の画像のものが正



出力結果

■p272 実行結果

本文とサンプルコードの実行結果の数値に僅かなずれが発生しています。

→サンプルコード(chap6\_sensitivity-analysis\_partialR2.ipynb)の実行結果を正としてください。なお、実行結果の解釈の方向性は本文と変わりません。

■p393 コード8.7 5行目

✕ : `g = ICALiNGAM()`

○ : `g = ICALiNGAM(random_state=2)`

ICALiNGAM()は、ランダムシードによって結果が変わりうるため、ランダムシードを固定して実行する必要があります。なお、本書の実行結果はrandom\_state=2の場合の結果です。

note上のサンプルコード(chap8\_causal-discovery\_gcastle.ipynb)では既に修正済みです。